

自己評価				評価(総合)	学校関係者評価						
学校運営方針				B	評価(総合)	A					
○幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた質の高い指導を行い、教育目標を実践する。 ○安全・安心な教育環境の中で心身の調和を重視し、一人一人に必要な合理的配慮の充実を図る。 ○聴覚障がい教育・知的障がい教育・肢体不自由教育の専門性向上を目指した研修体制の充実。 ○積極的な地域との関わりの中で、共生社会の実現に向けた理解と支援体制の構築を図る。 ○教職員の高い使命感と倫理観を保つため、教育環境の整備や職務環境の改善を進める。											
前年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		B	A	自己評価は A:適切である B:概ね適切である C:やや不適切である D:不適切である					
令和元年度は、学校研究のテーマに「カリキュラム・マネジメント」を明記し、日々の授業実践におけるPDCAサイクルの在り方について研究を深めた。本年度も昨年度に引き続き、その成果をもとに、カリキュラム・マネジメントを通して授業実践の更なる充実を図る。学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、一人一人に応じた教育活動を一層推進するとともに、積極的な情報発信と地域に開かれた学校づくりを強化する。	生きる力の育成と主体的・対話的で深い学びの実践のため、教育的ニーズに応じた「鍛えて・ほめる」指導を充実させる。	○新学習指導要領の改訂のポイントを踏まえた教育課程の見直しや授業改善、個別の指導計画に基づく個に応じた指導の徹底を図る。 ○幼児児童生徒の障がい特性を理解した授業改善に取り組む。 ○不登校児童生徒に対するさらなる支援づくりと支援を充実させる。									
	子供たちや教職員の健康の維持・増進ならびに生命と利益を守るため、保健活動と危機管理体制を充実させる。	○看護職員や医療機関との連携の強化による、より安全な医療的ケアに努める。また、状況に応じた感染症拡大防止対策の強化に努める。 ○防災計画や危機管理マニュアル、個別の緊急時対応マニュアル等の適宜見直しとそれらに沿った訓練の充実を図る。 ○個人情報漏洩防止のためのルールに則った学校管理システムを構築する。									
	新たな教育活動の実践に向けた研究と教職員の資質向上のため、教職員の専門性を向上させるとともに教師力をつける。	○自己研鑽、内行研修や学校研究の充実をとおし、専門性、指導力の向上に努める。 ○各部門の実態に応じた授業研究を実施する。また、ICTIに関する理解の深化と効果的な活用に努める。 ○教職員の人権感覚の向上と人権教育の目標を踏まえた道徳教育の推進を図る。									
	子供たちの社会参加と地域の特別支援教育に対する理解並びに共生社会の実現のため、地域に開かれた学校づくりをする。	○ホームページの定期的な更新と教育活動に関する積極的な情報発信を行う。 ○学校の状況に応じた学校行事の見直しと行事を通じた地域連携の強化に努める。 ○互いを理解し、認め合うことができる態度の育成に向け、幼稚園・小学校・中学校・高等学校との交流および共同学習の推進に努める。									
	働き方改革の推進とコンプライアンスの重視のため、教職員の職場環境の改善と不祥事防止意識を向上させる。	○特別支援教育等に関する相談・情報提供機能の強化を図る。 ○校務分掌(業務内容)の見直しと明確化及び教職員の業務量の軽減を図る。 ○勤務時間管理システム導入に伴う時間外勤務縮減の推進を図る。 ○不祥事防止研修のさらなる充実を図る。									
	評価項目	具体的目標	具体的方策				評価(3月)	次年度の主な課題		項目ごとの評価	学校関係者評価委員からの意見
	学校運営	○教員一人一人の専門性の向上を図るとともに部門や学部、分掌が組織的・合理的な運営を行うことができる体制を構築する。	○研修部と連携し、各障がい種に特化した知識や技能の習得及び教科指導等の専門性や授業力を確実に身に付けることができる研修体制を整える。 ○学部、分掌のチーフや担当者と管理職との連携を図り、組織として円滑に業務を遂行できるように組織の改善に取り組む。 ○各関係機関、学校評議員及び学校関係者評価委員との会議を設定し、学校運営に生かす。				B C A	B	次年度も、障がい種ごとに専門性の向上を図ることができるような体制を整える。特に、若手の育成に力を入れていきたい。また、コロナ禍における関係機関との連携の在り方を構築していくとともに、業務内容の精選や会議の内容・方法、会議時間のマネジメントに取り組むことで、業務の円滑な進捗を図り、効率的な学校運営に取り組む。		
	教育課程	○年間指導計画及び個別の指導計画を見直し、PDCAサイクルの充実を図る。	○各学部の実情に応じた教育課程の編成を行うとともに、その評価・改善の徹底を図る。 ○各教科等の目標及び内容を踏まえた指導の充実を図る。 ○年間指導計画と個別の指導計画の様式や運用等について見直しを行い、改善を図る。				B A B	B	・各学部における年度当初の年間指導計画の見直し、及び年度末の評価を通して、引き続き教育課程の適切な編成に努める必要がある。 ・統合型校務支援システムでの指導要録や個別の教育支援計画等の適切な運用に努める。また、必要情報を精査し、システムへ組み込む方法を模索する。	A	教育課程検討委員会を中心に計画的に協議を重ね適切な教育設計の編成に努めてほしい。また、統合型校務支援システムの適切な活用が職員の働き方改革につながることを期待する。
	研修	○よりよい学校づくりに向けに教職員一人一人の資質能力の向上や各部門・学部の教育課題の解決を図り、学校を活性化させる。	○研究対象の教科領域で、単元シートを活用しながらPDCAサイクルを実施することで、1年を通して年間指導計画の見直しを行う。 ○「何を学ばせたいか」「どのように学ばせようか」「何がどこまでできたか」を具体的にするとともに、指導後どんな力が身に付いたのかを明らかにしていく。 ○障がい種に応じた専門性向上研修や外部活用事業研修を企画・実施する。実施後アンケートをとり、評価・改善を行い、PDCAサイクルを充実させる。				A B A	A	・現在の授業改善シートを発展的に改善しながら、「どのように学ばせようか」という新たな視点をもって、授業改善を充実させる必要がある。 ・引き続き、PDCAサイクルを実施しながら、各部門各学部の課題や実態に応じて、職員研修等の充実を図っていく。	A	若年者研修については、今後も計画的・組織的に実施しさらなる充実を期待する。特に若年教員にはICTを活用した積極的な取り組みを期待する。
	人権・同和教育	○幼児児童生徒の自尊感情や障がい認識を育むとともに、教職員研修の充実及び関係諸機関との積極的な連携を図り、共生社会の実現を目指す。	○教職員研修を効果的に実施し、教職員の人権意識を高めていく。 ○人権教育の取組に関する記録(特設人権学習、実践レポート、「取組の記録」等)を集約し、成果と課題を明らかにし、次年度の改善に生かしていく。 ○関係諸機関との連携を深め、本校の取組を積極的に地域や保護者にも発信していく。	B A B	B	・コロナ禍のため、2年続けて全体研修会を中止にしている。来年度はPTAと連携した研修会を実施したい。 ・関係団体との連携もコロナ禍のため途切れているので、次年度は可能なところから再開させていきたい。	B	コロナ禍の中で計画していた研修会は実施できなかったが、次年度は引き続き継続的な研修会を実施し、職員の人権意識の向上に努めてほしい。また、日ごろの教育活動の中で生徒の人権を意識した取り組みを期待する。			
情報教育	○個人情報の漏洩が起らないよう細心の注意を払うとともに、研修会を行い、ICT機器を活用した授業の充実を図る。 ○更新の頻度を高め、学校HPの充実を図る。	○個人情報の漏洩が起らないように校務用PCの扱いについて周知徹底していく。 ○ICT機器およびアプリなどの研修会を行い、ICT機器の活用と授業内容の充実につなげる。 ○学校HPの各ページの更新頻度を高めることで情報発信の場として充実させる。	B A B	B	・校務PCの使い方は概ねルールを守って使用してもらっているが、電源の入れっぱなしなどが見られるので引き続き呼びかけをしていきたい。 ・ICT支援員によりiPadアプリの研修会はある程度研修をおこなうことができた。 ・HPについては一定の更新はできているがさらなる充実を図っていく。	B	ICT機器の活用に向けて研修のさらなる充実を期待する。また、ICT機器の管理については定期的に注意喚起を図る必要があると思う。				
庶務	○学校と保護者、関係諸機関との連携を深め、コロナ禍でのPTA活動や同窓会活動の充実を図る。 ○互助会の活動の活性化を図る。	○PTA役員との連携を密にし、PTA活動活性化の推進に努める。 ○同窓会行事の充実・改善に努める。 ○互助会福祉事業の推進に努める。	B A B	B	・コロナ禍でのPTA活動の場を積極的につくっていく必要がある。 ・成人年齢が引き下げられることから、同窓会行事の「成人を祝う会」の名称変更や行事の在り方の検討等を行う必要がある。	B	コロナ禍の中で計画していたPTAや同窓会などの活動は実施できなかったが、次年度は引き続き継続的な活動を期待する。また、成人年齢の引き下げによる対応について事前の検討をお願いしたい。				
幼児児童生徒指導	○全職員の共通理解のもとに、幼児児童生徒の心身の健康増進と安全確保に努め、充実した学校生活を送ることができるように取り組む。また、感染症予防や緊急時に備える意識を向上させる。	○共感的な生徒指導、日常の観察や継続的な指導、家庭との連携等を通して、いじめや非行等の問題行動を未然に防止する。 ○幼児児童生徒が、安全で安心な通学ができるように関係機関と連携し、情報を共有する。緊急時対応マニュアルの周知を図る。 ○児童会、生徒会の在り方について考え、独自の活動が行えるように、各部門や学部と連携しながら取り組む。	A B B	B	・高等部における自主通学について考える必要がある。 ・児童生徒の飛び出しについての対応の周知徹底を図る必要がある。	A	緊急時対応へのさらなる充実、職員への周知を期待する。また、消極的な生徒指導ではなく積極的な生徒指導の取組をさらに期待する。				
保健・安全	○幼児児童生徒の安全な学校生活のための危機管理体制を充実させるとともに、感染防止対策を継続させる。	○幼児児童生徒が安全な生活を送るために、実践につながる緊急時対応訓練を充実させる。 ○医ケア幼児児童生徒の防災マニュアルを整備していく。 ○幼児児童生徒が安心して学校生活を送ることができ、感染防止対策を徹底し、状況に応じて強化していく。	A A A	A	・バス内緊急時対応の動きと役割を研修会で再確認し、緊急時対応訓練につなげる。その後、実施の振り返りを徹底する。 ・医ケア幼児児童生徒の安全を確保するために、様々な災害時の状況を想定した訓練を行い、安全に避難できる体制づくりを行う。	A	次年度は医療的ケアを必要とする幼児児童生徒がさらに増える。医療的ケアを安全に実施するために職員研修の充実にも努めてほしい。引き続きコロナ感染症拡大防止に向けての取り組みに期待する。				
センター的機能	○教育相談や巡回相談はもとより、通級指導や研修の機会の提供等を通して、「地域における特別支援教育のセンター的機能」を発揮し、その深化充実を図るとともに、関係機関との連携充実を図る。	○幼児児童生徒の在籍圏や学校等が主体的に取り組む環境や意識作りを努める。 ○各部門の専門性と特別支援学校ネットワークを活かした相談支援活動を行う。 ○幼児児童生徒等の状態やニーズを丁寧に理解するとともに、年齢や成長段階を尊重した相談支援活動を徹底する。	A A B	A	・相談依頼先の実践を聞き取りを行いながら、取り組む視点を変えたり、新しい取り組みを提案したりしながら、主体的な特別支援教育の展開へつなげていく。 ・今後も特別支援学校間の連携を深め、センター的機能の充実を図る。 ・部内等の研修会を通して、相談活動に従事する担当者の専門性の向上を図る。	A	小学校にとどまらず高校でも特別な配慮が必要な生徒が増えている。今後も地域における特別教育のセンター的機能の充実を期待している。				
進路指導	○進路情報を収集し、「進路だより」やホームページ等によって適切に発信する。 ○自立と社会参加を意識した進路指導の推進を図る。	○進路先や支援センター、行政などの関係機関との連携を図る。 ○実習や体験、進路学習を通して進路についての意識付けを行う。	A B B	B	・コロナ禍の関係で進路ガイダンスなど保護者へ向けに情報を発信する場が十分にできなかった。情報発信の仕方を変更するなど情報発信の仕方の工夫が必要である。 ・系統的な進路指導の在り方について、次年度も継続して検討したい。	A	コロナ禍において、年度当初に予定していた進路指導の取組が十分にできなかったようであるが、進路は生徒・保護者にとって重要な問題なので、情報を共有して、見直しを持った取り組みに努めてほしい。				
防災	○防災マニュアルや防災訓練、備蓄の管理を見直し、防災意識を高めるための啓発活動を行ったり、事務と連携して校内環境を整備したりする等、危機管理体制を充実させる。	○災害が起きた際、実際に活用できる防災マニュアル、防災訓練となるように、管理職、各学部、各分掌と連携しながら見直す。 ○賞味期限前の備蓄食料の交換の手順に則って管理しながるを見直しを行う。 ○大規模災害を想定し、保護者への引き渡しができるような体制を整備する。	A A B	A	・防災マニュアルの見直しを行ったので、職員への周知についても力を入れた。 ・今年度の地震火災避難訓練は、3ヶ所に分かれての避難を実施した。来年度も災害に備えて、パターンを変えながら実践的に実施していく。 ・職員数増に伴う職員駐車場所、駐車割を検討する必要がある。	A	何よりも安全・安心な学校づくりが基盤であると思う。防災教育の組織的・計画的な一層の取り組みに期待する。				
寄宿舎	○学校と連携を密にし、舎生の安全と健康を第一に考え、舎生が安心して充実した寄宿舎生活を送ることができるようにする。	○学校と寄宿舎の担当者間で連携しながら、組織的に諸活動に取り組む。 ○安全点検、授業確認、避難訓練を実施し、安全・安心な寄宿舎生活の充実を図る。 ○保護者と連携を図りながら共通理解を深め、舎生個々の課題に適切に対応する。	A B A	A	・感染症対応の延長も視野に入れ、日課や諸行事、自治会活動等の日常的な感染症防止を踏まえながら、活動内容の一層の充実を図る。 ・年間を通し安全点検、緊急時対応、授業確認、避難訓練、保健衛生等において、舎生の一層の安全・安心な寄宿舎生活のため、必要に応じた実施内容や方法の検討を進める。	A	感染症拡大防止に向け、次年度も一層の取組に努めてほしい。				
事務	○予算の効率化を重視し、本校幼児児童生徒の実態に合わせた予算の執行に努め、施設設備の充実を図る。また、明確な資料を基に職員、保護者への対応に努める。	○経費の節減に努めながらも、幼児児童生徒の実態に応じた弾力的な予算執行を行う。 ○施設設備関係の要望を踏まえ、安全安心に過ごせるように優先順位を付けながら対応する。 ○分かりやすい資料を基に、丁寧な説明を行い教職員等への手当て認定等、また保護者への就学奨励費支給等を滞りなく進める。	A B A	A	・教室不足、職員室狭小等の諸課題解消に向けて、引き続き県へ要望を継続する。 ・施設設備の安全確保に向けた対応とともに、空調設備増加に伴う電気代の負担増が見込まれるため、より効率的・計画的な予算執行に努める。	A	来年度も引き続き教育活動の充実に向け取り組んでほしい。				
自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策						評価項目以外のものに関する意見					
・計画的、組織的な就業体験、職場実習を通して一層のキャリア教育の充実にも努めるとともに、生徒個々の希望進路の実現に向けた取組を行う。 ・本校における各教科の「見方」「考え方」を明確にし、目標を達成するために、効果的な「主体的で対話的な深い学び」の在り方を充実させる。 ・学校と寄宿舎が密な連携を行い、家庭との連携のもと、生徒一人一人の個性や特性を踏まえ、様々な課題に対し適切な指導・支援を行う。						コロナ禍の折、教育活動の制限・変革、働き方改革が大きく議論される時代ではあるが、先生方の使命と教育者としての自覚と誇りを持った日々の教育活動・保護者対応等、専門性の向上と教育内容の充実・深化を期待する。					